

HSK NPO 法人 「文福」 ニュース



「障」ちゃん



NO.251

冒頭の一言

(6)

すごいんです、新型コロナウイルス感染症。春のセンバツ高校野球なくなっちゃいました。各種のイベント、コンサートが次々と中止になっています。でも、桜の花の開花は中止されないと思います。せつかくの春ですから花見日和りに、みなさん花見にでかけましょう。

もちろん、新型コロナや花粉症には気をつけて。この間、魚津に行ってきました。米騒動の発端の米蔵を見てきました。蔵の中には入れません。車椅子対応のバリアフリーな建物ではなかったからというわけではありません。元々立ち入り禁止の建物です。道を挟んで富山湾が一望できます。天候によっては蜃気楼が見られるかも。

くれぐれもコロナウィルスと花粉、悪い人には気をつけておでかけください。

—もくじ—

冒頭の一言 ... 1	新年会報告 ... 2	自己紹介 坂井 ... 3
もちつき大会報告 ... 4-5	植松被告 ... 6-7	学習会報告 ... 8-9
運営会議報告 ... 10	今後の予定 ... 11	ありがとうコーナー ... 12

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
工
下
毎
週
一
回
一
、
一
、
三
、
五
、
八
、
一
〇
、
一
三
、
一
五
、
一
八
、
二
〇
、
二
三
、
二
五
、
二
八
日
発
行

新年会を行いました

2月22日に富山市の自遊館で32人が出席して今年の文福の新年会を行いました。この新年会では、それぞれ自己紹介や賞品が当たるビンゴゲームなどを行い、各テーブルを回り、和気あいあいと行いました。そしてこれはその時の八木理事長の挨拶です。

今日は強い風が吹く中、皆さんに集まって下さり、ありがとうございます。

さてここで文福のことを少し言うと、NPO 法人文福が障害者の社会参加や地域での自立生活をおくるため介助者ヘルパーを派遣する居宅事業を行っています。しかしその事業がだんだん人手不足になってきて、これは今の世の中への産業全体が人手不足になっていて介護派遣事業は特に人手不足でその中でも高齢者より障害者の方が介助は大変だというイメージがあって障害者の居宅派遣事業は1番人手不足です。ある信用のおける全国調査では、全体の人手不足で居宅事業のヘルパー派遣では、20代で働いている人が10%もないということです。それで文福としてもこれまで募集したりしているだけではダメで新しい何かを作っていかなければいけないと思っています。今これからの社会は障害者、高齢者だけではなく、全体の若者が各種貧困問題や子育てといった人々にも次世代福祉（全世代福祉）は必要で、むしろ障害者は全体から見れば恵まれているということが思われています。

新しいことという、色々な人たちと連携や連帯を取りながら、例えば、障害者のグループホームやシェアハウスや昔の長屋横丁のような感じで集まったりするものを作っていかなければならないと思っています、それは今後日本にお金もなく人間関係も希薄になっていくと予想するからです。それは1つの考えられる例ですがそのほかにも色々な人が集まって意見や行動を共にして連携をとりながらやって行かなければいけないと思っています、皆さんが文福と共に頑張ってくださいを期待しています。

自己紹介

坂井 由美子

令和 2 年 1 月より事務局員として入社した坂井由美子です。自己紹介といわれとても困っていますが、一言で自分を表現するならば、超明るく元気！おしゃべりも大好きな人！と思っていますので、気さくに声をかけていただくと嬉しいです。

直近の前職では放課後等デイサービスで小学生から高校生までの子供たちの支援員として働いていました。初めて障害福祉の現場に入り戸惑いながらも子供たちと一緒に成長体験の毎日を過ごしました。この仕事をしたことで、考え方・見方を一つにせず視野を広げて考え・見ることができるようになり、性格も少しは丸くなった・・・？と思っています。(笑)

事務局員としての経歴としては、毎年何百人入社して何百人も退職する勢いのある小売業で人事課配属の中で労務の仕事をしていました。「毎日こんなことがおこるんだ」と思うくらいの量と事案の中、社会保険等の手続き・人事制度の改変・システムの構築といった労務にかかわる数々の業務をしてきました。当初は何の知識もなくゼロからのスタートで苦戦しながらも時間がたつにつれ、たくさんの知識を習得させてもらい自分に自信を持つことができるようになった仕事でした。

前職を退職したときに何をしたいのか考えたとき、障害福祉の仕事もしたい・労務関係の仕事もしたい、と欲張りながらもハローワークで検索していたらこの文福の求人を発見し、なんの迷いもなくやりたいことすべてをできると即応募していました。

これからは今までの経験を活かして、文福では「みんなが働きやすい 働き方改革！！」を目指して頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



もちつき大会報告

去る 2 月 11 日に文福事務所にてもちつき大会を行いました。参加者は 36 名でした。予定としては、11 時半つき始めでしたが、もち米を蒸していたガスコンロの火が消えていることに気がつかないというアクシデントもあり、ちょっと遅れて 12 時前くらいにつき始めとなりました。毎年薪ストーブを使っていたのですが、今回は簡単にガスコンロにしたのが原因です。が、アクシデントはそれくらいで天気も晴れて、青空の下ペったんすることができました。計 3 回ペったんペったんをし、ほぼほぼの人が餅をつけたのではないかと思います。餅の他には豚汁と綿菓子を用意し、後者についてはぼちぼちだったかな。



来てくれた人たちはお久しぶりの人や、初めての人など様々で久しぶりに「人がいっぱいですれ違う幅がない」という状況だったのではないかと思います。このイベント自体は、11 時半から 15 時を予定し

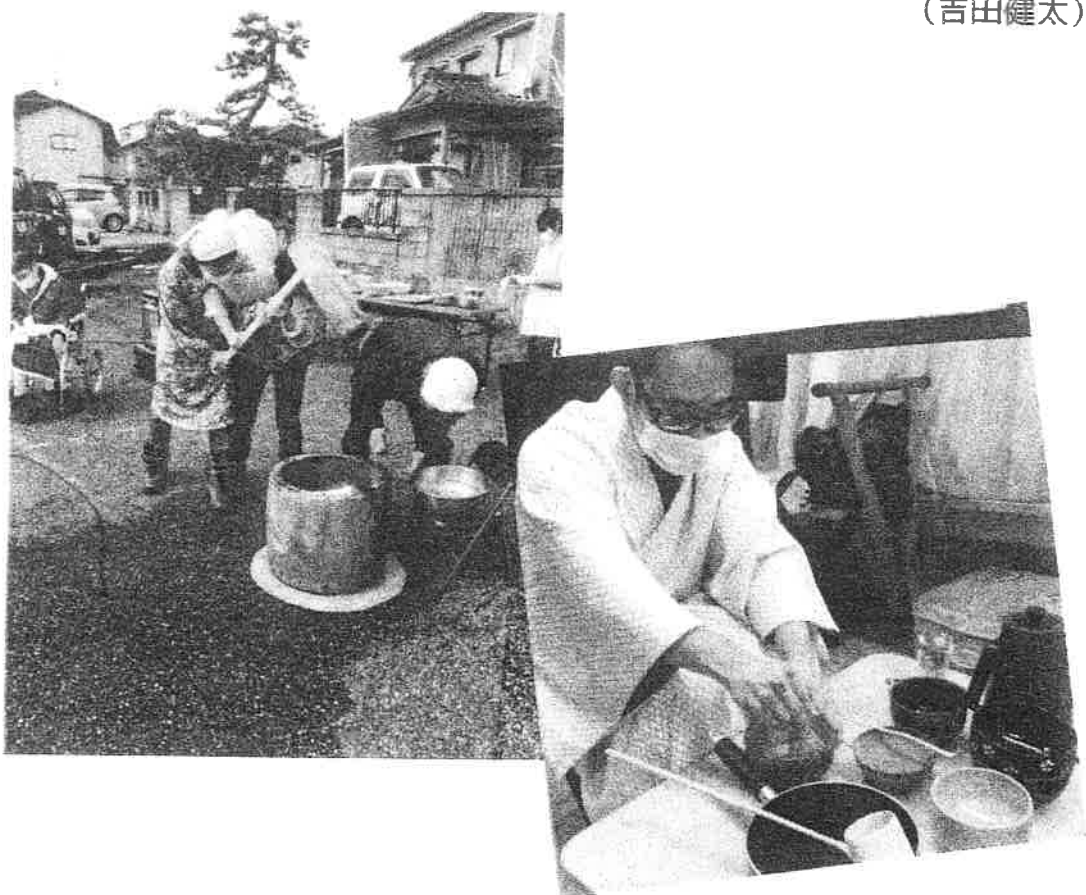
ていたのですが、近年もちつきの時の皆の傾向として、最初から最後までいる人が多く、こちらとしてはありがたい限りでした。今回はもちの量も少し減らしたので、「お持ち帰り用」のモチは少なかったと思われます。それが果たして良かったのか否かはまた参加した皆さんに聞き、今後につなげていきた

いと思います。

もちつきが終わった後は、皆がわいわいとやっている事務所内のすみっこで、KenzCafe をひっそりで行いつつ、楽しい時間が過ぎていきました。まあ本当にひっそりだったかどうかは、人手が足りず協力を求めたことで、そうならなかったようには思いますが（笑）イベントが終わった後は、餅や豚汁はほぼ残らなかったです。なので皆さんお腹いっぱい食べていってくれたのだろうと思うことにしました。食べ足りなかった人はごめんなさい。

と、そんな感じで今年度のもちつき大会は無事に終わることができました。イベント中は勿論、準備や後片付けに協力して下さった方々、また当日来てくれた方々、本当にありがとうございました。今回のもちつき大会ができたのもそんな皆様方のおかげです。また次回、宜しくお願い致します。

（吉田健太）



「大日本資本優生思想の一兵である植松を

死刑にする資格はない」

八木勝自

去る1月8日から3月16日まで障害者施設である「津久井やまゆり園」での障害者大量殺傷事件の初公判が行われました。その裁判の中では被告である植松氏の残忍で残酷な殺し方である次々と障害者の首をナイフで一突きにしたことなどが明らかになり、私もその手口に「こんちきしょう、馬鹿野郎」と思ってしまいました。しかしこの裁判は初めから異例続きの裁判でした。

まずそれを順序立てて書くと、裁判の傍聴席を他の傍聴席を被害者の遺族を他の傍聴人に見えないようにとアクリル板で囲ってしまったり、裁判の被害者の障害者もマスコミ発表や県などが主催した合同異例葬儀と同じように、この裁判でも被害者のことを一人一人の名前ではなく「甲、乙」と読んだりして検察も弁護士も裁判官も植松の家族構成とかを相続上の家族構成は一切聞かれないのです。私は植松がどうして殺人モンスターになったかを調べるためにはどうしても植松の家族のことを調べる必要があるのにそれが一切なかったのが、一番の不思議でした。また植松は初審議の時に自分の指を噛んで暴れましたが、それは植松被告は事件を起こした26歳の時から拘置所に入っていて、拘置所では食堂へ行くこともなくその場で食べ、トイレもその場でして1つの会話も全くなく、本や手紙などの差し入れは自由で接見だけがある程度認められている環境で、若い植松被告はこの奇態ゆえの精神異常を起こして異常な裁判の光景と展開に呑まれたものと思っています。

それから私は植松被告を残酷で憎く思いますが、人間というのは社会や人々に作られていくという面が大きく植松1人を死刑にしてそれで良いとい

う論理はないと思っています。例えば、それは戦争の中で人々や兵隊が敵兵を多数殺すことに関しても責任が問われる、戦局でその命令を下した上の者やその戦争を起こした上の責任者の責任なのです。何度も言いますが、私は植松被告を憎いと思います。それを作った優生思想の時代や社会や優生思想を持った人々にも問題があると思うのです。

植松は意思疎通できない障害者のことを「生きてても値しない命」として障害者を殺害したのですが、私は裁判の経過を新聞などで読んで驚いたのは被害者遺族の美帆さんの母親が裁判の証言の中で、元施設職員の植松のことを「あなたこそ不幸を作って税金を無駄に使って生産性がない生きる価値がない人間です」と言っているのです。無論私も植松から殺された遺族がそう言いたい感情はわかります。

しかしそれを言ったら、植松被告が障害者を殺した理由と同じことになり、植松被告を横浜の拘置所まで行って、接見した私としては植松はその美帆さんの母親の言葉を聞いて、心の底でにこっとして自分が勝ったと思ったのではないのでしょうか。全くこの裁判は異例づくしの裁判で優生思想に塗り固められた社会そのものだと私は思ってしまうのです。

私は植松被告 1 人を死刑にすれば済むという社会ではなく、そういった植松被告をどう更生させるかという社会になってほしいと思うのです。詳しくは原稿の字数で書かないけども、今回の障害者大量殺傷事件と近年起きている町田市のバス停での児童殺害事件とか京アニメ放火殺害事件とかもう少しちょっと古いところでは、大阪の池田小学校に乱入した児童殺害事件と今回の事件は少し違うけれど、そういった事件もついつい起こり、優生思想の人間が希薄化した社会ではそういった事件が後をたたないと思うのです。

連続学習会報告

去る 2 月 28 日、今年度最後の学習会を行いました。

この日は、体調が悪い人が多くて参加者があまりいなくて、いろんな意見が聞けなくて残念でした。

初めに NHK スペシャル「彼女は安楽死を選んだ」という番組を見た後、意見交換をしました。

番組は、多系統萎縮症という難病を患った女性が、痛みとだんだん身体が動かなくなり、人工呼吸器を付けて最後は死に至るという状態がわかって、彼女はスイスにある「安楽死」団体に登録したのです。

このスイスにある団体だけが、海外からの希望者を受け入れているのです。

日本からも年々希望者の登録が増えているとの事でした。

彼女が発病してからの苦悩、家族の苦悩を描き、一方で同じ病気でもうすぐ人工呼吸器を付けるしか延命できない人が、自己の意志で人工呼吸器を付けるという決断をした人も出ていました。

彼女は、人工呼吸器を付けて、寝たきりになっておむつを替えてもらって、食事を与えられて、それでも生きる希望があるのかと自問自答して、「安楽死」を選んだのです。家族（姉妹）も妹が動けなくなっていくのを見ていて、辛かったし、自殺未遂を繰り返されるよりはと思い、でも、迷いながら、妹の決断に従って、スイスまで一緒に行き、見送ったのです。しかし、彼女の下の子は、最後まで、「安楽死」に反対していました。

スイスに着いて、団体の事務所で、誓約書にサインをして、医師から「安楽死」についての説明を受けて、該当するかどうかの診察を受けて、該当するという結果が出て、実行するまで、2 日間考える時間がある。その間に考えが変わったら、いつでも家に帰って良いということでした。

実行の場所はスイス郊外にあり、着いたら、準備が始まりました。点滴とビデオカメラです。ビデオカメラは警察に提出するために用意されていました。彼女が点滴のコックを開いて、2 分ほどで逝きました。

まず、この日配った資料の説明をしてもらいました。その後は、感想と意見を出してもらいました。

Y) この前の総会に来てくれた京都自立センターの渡邊琢さん達が抗議文出している。それを見たかったんだけど。〈後から抗議文が配られた〉

M) 安楽死ってどんなものなのか興味あって日本で認められていないのは知っていて、自分らしい生き方、死に方というのもありなのかなど。家族で祖母が癌になった時に、延命措置はしたくないというのを聞いて、この先見通しがなかったりとか生きているのは辛いとか周りの人に申し訳ないとかあったりして、日本からもそういう人が海外に出始めているので、日本でもそういう話し合いをして欲しいなど率直に思いました。

K) 私はこの番組をこれで四回見ていつも見終わった後、なんとも言えない気持ちになる。昔、オランダの安楽死をした人の番組があって、それは新聞にも載ったので抗議をしに行ったことがあります。私ら障害者からしたら障害が重くなるほど人の手を借りて生きていくのが当たり前だという考えがあるもので、こういう番組を見て思うのは、まだこの人らは軽いのに、なんで死を急ぐ必要があるのかとか、でも、私は苦しいのは嫌だから楽に死にたいとかは思う。それが正直な気持ちです。

Y) Kさんから障害者差別だと抗議に行ったけど、あれはAさんが言ったように安楽死ではなくって尊厳死ですよ。始めに言うとあの人なんで元気な内に死を選んだかという、あの死のスイッチを開けれなくなるからなんです。自分が苦しくて死にたいと思っても、認めてくれない。あの番組見ててKさんが言ったような気持はよくわかる。僕もそう思う時はある。障害者は相手にしない。究極的には高齢者、役に立たない高齢者はみんな安楽死を選ぶべきだというふうに誘導していくことがすごく怖かった。納得する。高齢者は歳にとって動けなくなったら、どうしようかと思っている人は、私はそこが問題だと思った。

つづく

※ページ数の関係で一旦ここで区切ります。続きは次号掲載予定です。

運営会議報告 2020 年 2 月 18 日(火)現在

各部からの報告

連続学習会

2 月 28 日(金)19 時から文福事務所にて学習会がある。テーマは「安楽死について」。NHK スペシャル「彼女は安楽死を選んだ」を見て意見交換を行う予定。

障害者部会

自遊館のトイレに手すりや背もたれがついていないので改善の要望をした。障害者の任意団体の件で、アンケートや文書など送ってもらえないということで県に問い合わせたところ、特に規定や届け出は必要ないと回答があった。

介護・介助派遣事業部

2 月 20 日(木)14 時からオープン会議でヒヤリハットについて、研修を行う予定。

レクリエーション部会

2 月 11 日(火)事務所でもちつきを行った。参加者は 35 名ほどだった。

夢宙人でボッチャをやる。3 月 14 日(土)場所は福祉プラザにて。

障ちゃんニュース発行部

編集中。2 月 21 日(金)印刷。

まっち発行部

締め切りを 3 月 20 日(金)に延ばす。原稿募集中。

その他

- ・各部での年度末のまとめ、及び来年度の計画を立てましょう。
- ・6 月 13 日(土)の総会について。午後からの講演会では、昨年と同じく相模原殺傷事件の DVD 製作者、澤則雄さんをお呼びする。前年のその後ということで、「障害者が地域で生きにくいのはなぜ? ~相模原事件が問いかけるもの パート 2 ~」をテーマに行う。
- ・もちつきについて。初めて文福主体で開催したが、来年はどうか話し合いの結果、来年も続ける方向でという話になった。
- ・事務所当番の役割をきちんとしましょう。業務日誌も書きましょう。

次回運営会議は 3 月 24 日

報告者：山岸



◆今後の予定◆

このコーナーでは、基本的に文福や他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

いつもは文福や他団体のお知らせを掲載しておりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止によりイベントが自粛・中止・延期が相次いでいます。この影響でイベントの案内も届いていないため、掲載が出来なくなっています。

SORRY...



☆☆☆—— ページに余白ができたのでおまけです。 ——☆☆☆

(NNN ドキュメントの Twitter の画面)



日本テレビ系列の NNN ドキュメントで放送された八木理事長の番組の「19 人を殺した君と重い障がいのある私の対話」に関する Twitter の画面です。TV も好評で様々な意見が出ていて八木理事長も勉強になったと言っています。詳しく見たい方は「#NNN ドキュメント Twitter」内で植松被告などで検索してみてください。

ありがとうコーナー

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後よろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

3月になっても「新型コロナウイルス感染症」肺炎は、留まることなく世界中に広がって来ています。それで全国一斉に小・中・高の学校が休校になり、マスク、トイレットペーパー、ティッシュペーパーまで買い占められてスーパー、ドラッグストアになくなっていきます。もう、パニック状態ですね。少しでも、冷静に物事を考えたいと思う今日この頃です。
アパッチ



*** 2019 年度 新規会員・継続会員 ***

大西 貞夫さま

*** 物品提供 ***

- | | | | |
|---------|----------|----------|------------|
| 川瀬さま | 上田 孝子さま | 能登 泰子さま | 長崎 マストゥリさま |
| 先祖 宏樹さま | 升谷 千春さま | 鈴木 美明子さま | 清水 博史さま |
| 温井 雅也さま | 瀬戸 紀美子さま | 堀 慶典さま | 居石 真理さま |

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
HSK 毎月一・二回（一、三、五、八、一〇、一三、一五、一八、二十、二三、二五、二八日）発行

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぷく} 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3

e-mail: bunpuku@arrow.ocn.ne.jp

HP: <http://bunpuku.org/>

TEL / FAX (076) 4 4 1 - 6 1 0 6

定 価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。